

2023年2月25日印刷  
2023年3月1日発行  
毎月1回1日発行

2023 March

# フルコンタクト KARATE 84 MAGAZINE

## 初期の極真全日本から考察！

定価 本体690円+税



## 大山倍達、情熱と願い

上田幹雄「金色の剛脚」 鞠谷貴大「誠會迎撃」  
浜井識安「極真裏歴史」 大石代悟「大山倍達移動稽古」  
正道会館・石井和義vs.禅道会・小沢隆vs.レノンリー  
西良典vs.ヒクソン・グレーシー 新生POINT&K.O.  
ワールド極真ドラゴンカップ 全日本オープン防具

分裂から統一を目指せ！



第1回全日本極真(支部長会)



# 横山愛理(女子)が復活V! 早田信2年間無敗! 芦高侑平、重松翔にリベンジで初代統一大会王者! 第1回オープントーナメント全日本極真空手道選手権大会

日時/2023年1月15日(日) 会場/駒沢オリンピック公園総合運動場・屋内球技場  
主催/一般社団法人国際空手道連盟極真会館支部長会

## 一般男子無差別

各会派に分かれた極真会館が統一で開催する全日本大会を目指し、支部長会が立ち上げた統一大会。「新しい歴史がここから始まる」と銘打たれた記念すべき第一回大会には加盟団体569道場145名が参加した。

男子(18歳以上)無差別には44名(極

真は30名)がエントリー。注目は選手

宣誓を行った重松翔(極真連合会)、連

合会全日本で連覇中の選手である。「3

週間前に別の大会で左脛にヒビが入っ

た」というものの、準々決勝では福永

匠真(KWF千葉田中)に本戦旗判定

4-10。準決勝でも呉屋広樹(極真連

合会)に対し、「打ち所が悪ければ痛み

が走る。準決勝まで封印していた」と

いう左下段蹴りで圧倒し、旗を本戦で

5本獲得し、決勝へと進出した。

決勝の相手は重松曰く「連合会の第

48、51回全日本の決勝で顔を合わせ、

連合会全日本では連勝中だが、9回戦

つて戦績は向こうの方が上」という芦

高侑平(極真関西総本部)。準決勝では

「ローを死ぬほど蹴ったが止まらん

(笑)」という武藤恵汰(勇士會館)を

旗判定5-10で下し、決勝へ。

「毎回何かしら新しい策を少しずつ

盛り込んでいる」という重松と芦高の

決勝戦。本戦はどちらにも旗は上ら

ず、延長戦へ。

延長の終盤で動いたのは重松。「どう

せ蹴れないなら、パンチで打つしかな

いと思った。連合会の世界大会を見据

えて侑平対策として、詰めて行こうと

思った」(重松)

「重松さんの方からラッシュを仕掛

けてきたので驚いた」と芦高。

しかし、芦高の新兵器である右下段

蹴りがサウスポーでもある重松に効果

的に当たり、さらに芦高のラッシュの

回転が重松のそれを上回る。旗は芦高

に4本上がり、芦高が優勝を成し遂げ

た。初代王者となった芦高は「重松さ

んとは連合の世界大会の決勝で再び戦

いたい」と述べた。



男子無差別級決勝、芦高侑平(極真連合会)が二連敗中の重松翔(極真連合会)を延長戦で得意のラッシュを用いて押し切り、旗4本獲得して優勝。



男子無差別級準決勝、重松翔(極真連合会)が呉屋広樹(極真連合会)にヒビの入った左の蹴りを打ち込んで本戦旗判定3-0。



男子無差別級準決勝、芦高侑平(極真連合会)が武藤恵汰(勇士會館)に序盤からコツコツと当て、右下段蹴り、ラッシュに繋げて本戦旗判定5-10。



男子無差別級3位決定戦、武藤恵汰(勇士會館)が呉屋広樹(極真連合会)から下段蹴りで技有を2回奪い、合わせ一本勝。





「最大の山場は準々決勝の桜塾・石野源太郎選手、決勝のことは考えていなかった」という芦高が右下段蹴し蹴りと得意のラッシュで難敵を下す（旗判定3-0）。



男子無差別級準々決勝、武藤恵汰（勇士會館）が石嶺雄大（琉道會館）に延長3-1。



男子無差別級準々決勝、兵屋広樹（極真連合会）が再延長4-1で早川羅偉（桜塾）を退ける。



女子無差別級決勝、「週3回練習、股関節が悪いので、今大会に向けて、ベンチプレス60キロなど上半身の筋トレを頑張ってきた」という増山愛理（極真連合会）が金城杏奈（極真連合会）を延長旗判定5-0で下し、優勝。



男子無差別級準々決勝、重松翔（極真連合会）が福永匠真（KWF千葉田中）に本戦旗判定4-0。

## 一般女子無差別

女子無差別には、13名（極真9名）がエントリー。

本命はJFKO女子軽中量級（48kg以上53kg未満）王者・石野まこと（桜塾）。しかし、金城杏奈（極真連合会）が準決勝で立ちふさがった。

右に動きながら、下段蹴り、膝蹴りなどを出し続けて、旗判定5-0。



女子無差別級準決勝、金城杏奈（極真連合会）が石野まこと（桜塾）の攻略に成功し、本戦旗判定5-0。



女子無差別級3位決定戦は、石野まこと（桜塾）が酒井琉翔（桜塾）に本戦旗判定4-1。



女子無差別級準決勝、前蹴りでリズムを作った酒井琉翔（桜塾）であったが、増山愛理（極真連合会）が本戦旗判定3-0で勝利。

決勝へと進んだ金城の相手は、増山愛理（極真連合会）。準決勝では「一発上段を食らって、距離感を把握できた」という酒井琉翔（桜塾）を本戦旗判定3-0で下している。

金城と増山の決勝戦。「金城選手と対戦したのは去年の宮崎県大会、最終延長で勝利した」という増山に対し、「本戦にかけていた」という金城が横の動きを織り交ぜながら、攻め続ける。しかし旗は上がらず、0-0。延長戦では「間合いがとりづらかったが、下段を散らせられた。嫌がっていたと思う」という増山が徐々に金城を後退させ、旗5本獲得。試合後「大きなタイトルは10年ぶり、行けるところまで一般部で頑張りたい」と語った。



## 男子シニア(48〜59歳重量)



男子シニア(48〜59歳)重量級決勝、「通常インローで崩していくが、それさえもできないほどの圧力だった」という早田信(極真連合会)が突きで攻める作戦に切り替えて、田口研二(極真小嶋)に延長5-0。



男子シニア(48〜59歳)重量級準決勝、早田が序盤から前に出た松木洋三(極真連合会)に本戦旗判定4-1。



男子シニア(48〜59歳)重量級準決勝、このクラスで破壊力トップの田口研二が重い下段蹴りで加藤一博(極真連合会)に本戦旗判定4-1。



男子シニア(40〜47歳)軽量級決勝、西脇美津男(白蓮会館)が平田裕紀(極真浜井派)の顔面殴打により反則勝ち。



男子シニア(40〜47歳)軽量級準決勝、西脇美津男(白蓮会館)が保子圭(極真連合会)に本戦旗判定5-0。



男子シニア(40〜47歳)軽量級準決勝、平田裕紀(極真浜井派)が工藤一彦(優至会)に本戦旗判定5-0。

24名参加した男子シニア(48〜59歳重量)。本命は「2年間無敗、9大会連続優勝」という早田信(極真連合会)。  
しかし「今大会出場する選手が重く、打撃も威力も想定以上だった」と語った通り本大会では薄氷の勝利が続いた。

準決勝では「25年前に対戦したとき上段膝蹴りが上手く、それを警戒しすぎた」という金田宏臣(ワールド極真)に本戦旗判定3-2と辛勝。  
準決勝は「25年前に対戦したとき上段膝蹴りが上手く、それを警戒しすぎた」という金田宏臣(ワールド極真)に本戦旗判定3-2と辛勝。  
松木洋三(極真連合会)と対戦。「本戦旗判定4-1だったが、動きが悪く緒戦で当たったら負けていたかもしれない」と振り返る試合内容であった。決勝は香川県大会の一般の部で3年前に対戦した(早田が勝利)という田口研二(極真小嶋)に苦しめられる。体重で18キロ上回る田口が積極的に前に出て、下段蹴りで勝負に出る。

早田も「田口選手は圧力があり、片足になると持っていられる。足を止め打ち合うしかない」と突きに切り替えて応戦するが、田口に旗が2本上がり、旗判定2-1。「旗が相手に2本上がって焦った」と追い詰められる。しかし延長戦に入ると、田口のスタミナが切れ始める。圧力の落ちた田口の下段蹴りに左右の突きを合わせ続ける早田。田口も必死の表情で最後まで打ち続けるも、早田に旗5本。連勝記録を伸ばした早田は「世界大会での優勝も目標だが、勝ち負けよりも見ている者を感動させられる空手家を目指したい」と安堵の表情を浮かべた。



開会式の様子。





男子シニア(40～47歳)重量級決勝、「17歳から始めて現在41歳、週5回練習」という渡部紫苑(優至会)が3回目の対戦となる志賀賢一(極真連合会)に延長旗判定4-1で3連勝。



男子シニア(48～59歳)軽量級決勝、圧をかける松本健一(極真連合会)の攻撃を下がりながら、攻撃を合わせた西村季記(極真連合会)が本戦旗判定5-0。



男子シニア(40～47歳)重量級準決勝、志賀賢一(極真連合会)が伊藤雄(世界全極真)に本戦旗判定5-0。



男子シニア(40～47歳)重量級準決勝、渡部紫苑(優至会)が藤澤賢一(極真派)に本戦旗判定5-0。



男子シニア(48～59歳)軽量級準決勝、松本健一(極真連合会)が高村俊一(極真連合会)に本戦旗判定4-0。



男子シニア(48～59歳)軽量級準決勝、西村季記(極真連合会)が顔面殴打を繰り返すが、川村明(極真連合会)に本戦旗判定5-0。



女子シニア(35～44歳)軽量級決勝、古河原美沙(優至会)が横に動きつけて、廣田友里(極真連合会)に本戦旗判定5-0。



女子シニア(45～55歳)軽量級決勝、安岡麻由良(講士館)が横に動いて、突きを出し、最後は気合で尾原さな江(極真連合会)に本戦旗判定4-0。



入賞者、支部長会のメンバー。率先垂範の田畑繁事務局長を中心に支部長会メンバーが各自の仕事を行き、大会は無事に終了。



女子シニア(45～55歳)重量級は、松田知津(優至会)が山上幸子(講士館)に本戦旗判定5-0で勝利。



来賓の皆さん。左から花上喜代志(横浜市議会議員)、渡辺元(山形市議会議員)、松沢成文(参議院議員)、牧山ひろえ(参議院議員)、山崎誠(衆議院議員)、6番目から全日本空手道連盟・栗原茂夫副会長、菅川発会長。